

2024年度第5回東京競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 秋陽ジャンプステークス

秋陽（しゅうよう）は、秋の陽射しのこと。絵画、写真などの芸術や短歌、俳句などの文学において、秋陽をテーマとした多くの作品を見ることができる。

○ 神奈川新聞杯

神奈川新聞は、神奈川新聞社より発行されている日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ ノベンステークス

ノベンス（November）は、11月を意味する英語。ラテン語で「9」を意味する「Novem」が語源とされ、古代ローマで採用されていた3月起算の暦において9番目の月という意。

○ 京王杯2歳ステークス（GⅡ）

本競走は、1965年に『京成杯3歳ステークス』として創設された重賞競走。当初は中山競馬場の1200mで行われていたが、1980年に東京競馬場の1400mに変更された。また、1984年のグレード制導入によりGⅡに格付けされ、1998年に『京王杯3歳ステークス』に改称された後、2001年の馬齢表示の国際基準化に伴い、『京王杯2歳ステークス』となった。

京王電鉄は、東京都多摩市に本社を置く鉄道会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 百日草特別

百日草（ひゃくにちそう）は、キク科の植物。別名はジニア（Zinnia）。メキシコが原産で、日本には、江戸時代の末期に渡来したとされる。花色は紅・紫・白・黄など多彩。開花時期が初夏から晩秋までと長いことからこの名が付いたと言われている。花言葉は「幸福」「絆」。

○ 錦秋ステークス

錦秋（きんしゅう）は、紅葉が錦の絵柄のように色鮮やかな秋の様子を表現した言葉。

○ アルゼンチン共和国杯（GⅡ）

本競走は、1963年に日本とアルゼンチンの友好と親善の一環として、アルゼンチン・ジョッキークラブから優勝カップの寄贈を受け、『アルゼンチンジョッキークラブカップ競走』として創設された重賞競走。1974年にアルゼンチンの競馬がジョッキークラブから国の管轄に移管されたことに伴い、その翌年から現在の名称となった。創設時は4歳以上2300mの別定重量戦であったが、幾度かの条件変更を経て、3歳以上2500mのハンデキャップ戦となった。

<第3日>

○ オキザリス賞

オキザリス(Oxalis)は、カタバミ属の球根類の総称。南アフリカや熱帯アメリカが原産。日本には、江戸時代に渡来したとされる。花色は種によって桃・白・黄など多彩で、光に反応して花が開き、暗くなると閉じるという特徴を持つ。花言葉は「喜び」「母親の優しさ」。

○ 奥多摩ステークス

奥多摩(おくたま)は、東京都西多摩郡にある町名およびその周辺部の山城。御岳山や雲取山、関東最大級の規模を誇る日原鍾乳洞などの観光スポットが有名。

○ 東京中日スポーツ杯武蔵野ステークス（GⅢ）

本競走は、1996年に創設されたダート重賞競走。当初は春季の2100mで行われていたが、ダート競走体系の整備に伴い、秋季の1600mに変更となった。なお、第1着馬には同年の『チャンピオンズカップ』への優先出走権が与えられる。

武蔵野(むさしの)は、東京都中央部の市。また、関東山地の東麓に広がる洪積台地。

東京中日スポーツは、中日新聞社東京本社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第4日>

○ 銀嶺ステークス

銀嶺(ぎんれい)は、雪が降り積もって銀色に輝く山のこと。

○ ユートピアステークス

ユートピア(Utopia)は、「空想上の理想的な社会」「理想郷」を意味する英語。ギリシャ語の「どこにもない(ou)場所(topos)」「良い(eu)場所(topos)」に由来する。

○ オーロカップ（L）

オーロ（Oro）は、「黄金」を意味するスペイン語。

本競走は、盛岡競馬場と東京競馬場の姉妹提携を記念するとともに、地方競馬と中央競馬の友好と親善を図ることを目的として1996年に創設された競走。盛岡競馬場では交換競走として『東京カップけやき賞』が実施されている。また、同競馬場は「オーロパーク」の呼称で親しまれている。同競馬場のある岩手県は「南部曲り家」「チャグチャグ馬コ」等に象徴されるように、古くから馬事文化が根付いている。

<第5日>

○ 南武特別

南武（なんぶ）は、武蔵国の南部の意。JR南武線の名称の由来となっている。南武線府中本町駅は、東京競馬場の最寄り駅としても利用されている。

○ 晩秋ステークス

晩秋（ばんしゅう）は、秋の終わりのこと。また、陰暦9月の異称。「晩秋の候」など時侯の挨拶にも用いられる。

○ 東京スポーツ杯2歳ステークス（GⅡ）

本競走は、『東京3歳ステークス』を前身とする重賞競走。1968年に『府中3歳ステークス』へと名称が変更され、1984年には距離が1800mとなった。1996年に重賞競走に格上げされた後、1997年に『東京スポーツ杯3歳ステークス』と改称され、2001年から現在の競走名となった。なお、2021年にGⅡ競走へ格上げされた。

東京スポーツは、東京スポーツ新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第6日>

○ 赤松賞

赤松（あかまつ）は、マツ科の常緑針葉樹。赤褐色の樹皮が特徴。全国の山野、特に内陸部に広く分布しており、防風林として植林されるほか、庭木としても栽培される。黒松が「雄松（おまつ）」と呼ばれるのに対し、赤松は「雌松（めまつ）」と呼ばれる。

○ 秋色ステークス

秋色（あきいろ）は、葡萄色や柿色などの秋を連想させる色。また、「しゅうしょく」とも読み、秋らしい景色や趣のことを指す言葉。

○ 霜月ステークス

霜月（しもつき）は、陰暦 11 月の異称。霜が降りる月のため「霜降月（しもふりつき）」と呼ばれていたものが、のちに省略され「霜月」になったとの説がある。

<第 7 日>

○ カトレアステークス

カトレア (Cattleya) は、中南米原産のラン科の洋ランの一種。40 種ほどの原種から多くの改良種がつくられ、ランの女王とも呼ばれている。花色はピンク・赤・黄・白・淡紫など多彩。花言葉は「優雅な女性」「魔力」。

なお、本競走は、日本馬を対象とした『ケンタッキーダービー』出走馬選定ポイントシリーズ「JAPAN ROAD TO THE KENTUCKY DERBY」の対象レースとなっている。

○ シャングリラステークス

シャングリラ (Shangri-La) は、「理想郷」を意味する英語。名は、イギリスの作家ジェームズ・ヒルトン (James Hilton) の小説「失われた地平線」の中に登場する理想郷に由来する。中国の桃源郷伝説と結びつけて語られることが多い。

○ キャピタルステークス (L)

キャピタル (Capital) は、「首府」「首都」「(中央官庁のある) 都市」を意味する英語。

<第 8 日>

○ ベゴニア賞

ベゴニア (Begonia) は、シュウカイドウ科ベゴニア属の植物の総称。原種は熱帯・亜熱帯に分布し、その数は 2,000 種余と言われている。葉は左右非対称で、色彩・模様・形状など変化に富み、花色も淡紅色・白・黄・赤・紫など多彩。花言葉は「愛の告白」「片思い」。

○ オリエンタル賞

オリエンタル (Oriental) は、「東洋的」「東洋風」を意味する英語。また「(宝石が) 上質の、光沢が美しい」という意味もある。

○ アプローズ賞

アプローズ (Applause) は、「拍手」「喝采」を意味する英語。数多くの競走馬の中から激戦を勝ち抜いた者に対する称賛の意味が込められている。

○ JRAウルトラプレミアム アーモンドアイカップ

本競走は、JRA70周年「メモリアルヒーロー」ファン投票において、『ジャパンカップ』の歴代優勝馬の中から選ばれたアーモンドアイ号の名を冠した競走。

アーモンドアイ号は、2018年（第38回）・2020年（第40回）の『ジャパンカップ』優勝馬。2018年は史上5頭目の牝馬三冠を達成し、同レースで古馬との初対決となったが、JRAレコードを樹立し完勝。引退レースとなった2020年は、同年の牡馬三冠を無敗で達成したコントレイル号、牝馬三冠を無敗で達成したデアリングタクト号との史上初の3頭の三冠馬対決を制した。生涯成績は15戦11勝、海外G1を含むG19勝を挙げるなど、輝かしい実績を残した。これらの功績から、2018年、2020年のJRA賞年度代表馬に、2023年には顕彰馬にも選定された。

なお、本競走は、払戻額を大幅に増加させる「JRAウルトラプレミアム」の対象競走。

○ ジャパン・オータムインターナショナル ロンジン賞 ジャパンカップ（G1）

本競走は、「世界に通用する強い馬づくり」を目指すべく、1981年に創設された重賞競走。初年度はアメリカ、カナダ等の4ヶ国から合計8頭を招待して実施された。1982年にはヨーロッパとオセアニア地区、1983年には地方競馬の代表馬も招待の対象となった。また、2008年に創設された秋季国際G1競走シリーズ「ジャパン・オータムインターナショナル」に指定されている。

ロンジンは、スイスのサンティミエに拠点を置く時計ブランド。本競走は、同ブランドより寄贈賞を受けて実施されている。